

## 1 題材名

『備えあれば憂いなし?』 <地理分野 2年生 「自然災害と防災・減災への取り組み」>  
～千葉市が災害に見舞われたら・・・～(令和元年房総半島台風(15号)と10月の大雨被害を通して)

## 2 授業のねらい

- ①学習指導要領に、より積極的に「防災・減災」に関する学習を行うように記述があります。千葉市で実際にあった災害被害の大きさを知って身近に感じてから、日ごろの備えをどうしたらよいのかを考えるという授業です。
- ②令和元年房総半島台風(15号)の暴風雨と、その後の台風(19号、21号)による大雨の実際の被害をデータで確認します。その後、千葉市としてどのような対策を講じているのかを資料から読み取り、自分自身の問題としてとらえさせたいと思います。

## 3 指導計画上の位置付け

- ◇1時間扱い
- ◇第3編第2章：日本の地域的特色と地域区分  
日本の自然災害の現状とその対策を、地元を例に扱う内容です。

## 4 予想される授業の流れと指導資料

- ①実際に経験した暴風や降雨と、その被害の状況を数字と記録写真で確認します。
  - \* 気象の概況、最大瞬間風速、最大風速、最大1時間総水量、総降水量
  - \* 死傷者数、住居建物被害、倒木や冠水等、ライフラインの被害(電気、通信、水道)、避難状況
- ②千葉市のハザードマップを使って、自宅や学校周辺で起こりうる災害の可能性を考えます。
- ③[自助][共助] 自力で、および近所や町内会等でできる備えを考えて発表します。
  - \* 自分が助かるための備え
  - \* 中学生は「助ける側」の立場にもなるという認識
- ④[公助] 千葉市の災害対策を確認します。
  - \* 避難に関する情報提供、備蓄品の準備・確認(品目、数量、消費期限・・・)
  - \* 政策としての方向性
- ⑤災害に対する備えについて、②～④をもとに自分自身の考えをまとめます。その後発表して共有します。
  - \* 日常の心がけ、家族との話し合い、市の方針への共鳴・提言、 など

### <活用する主な資料>

- ◎令和元年災害記録誌(千葉市作成)
  - 2章：気象・被害の概要
  - 5章：将来に向けた防災・減災対策(「災害に強いまちづくり政策パッケージ」)
- ◎千葉市防災ポータルサイト(ハザードマップなど)

## 5 指導上の留意点、その他

- ◇停電や断水が長引いた地域では、実体験をもとにより深い話し合いができると思います。自宅周辺や校内で倒木を見た生徒からは、素直な感想を引き出して被害の大きさを実感させたいところです。
- ◇今回の内容は風水害の例ですが、地震や火災等による災害の際にも共通する部分があることを理解させておきたいです。
- ◇小学生向けのプログラムでは、災害時に自分や家族が困ることや自宅や学校での備えなどについて学習します。合わせてご覧ください。